

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福岡県大牟田市立甘木中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☒ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒837-0905

福岡県大牟田市大字甘木 6 1 3 番地 1

E-mail amagi-is@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website _____

生徒数 男子 187 名 女子 136 名 合計 323 名

生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、実社会や実生活とのかかわりを重視した「生き方」に焦点を当て、各学年の発達段階に応じた体験活動を展開し、生徒に主体性や創造性を身につけさせることをテーマとしている。

具体的には、①福祉について考える活動、②地域に学ぶ活動、③将来を見つめる活動を行った。

① 福祉について考える活動

認知症学習を通して人とのかかわりあいを学び、それらを経験することで、自らの考えや生きたを共有した。

② 地域に学ぶ活動

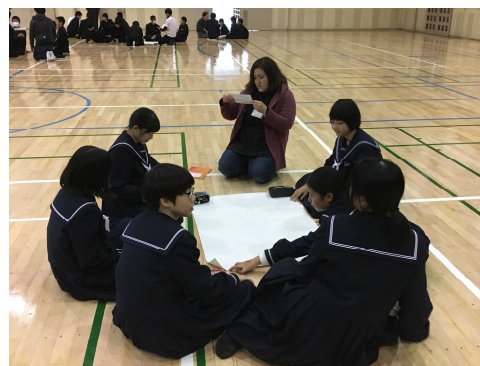
地域の様々な職種について調べ、グループごとに職場への体験活動を行い、仕事に対する考えを培った。

③ 将来を見つめる

自分の適性を知り、より具体的な進路について考え、進路実現のために、現在の自分をみつめる機会とした。また、高校の先生方に本校で授業をしてもらうことで、進路選択の参考にした。



①の写真（GTによる認知症学習）



①の写真（グループ学習）



②の写真（職場の体験活動）



②の写真（職場体験活動の発表）



③の写真（高校から出前授業）



③の写真（高校から出前授業）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	□ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	□ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

認知症に関するもの（絵本）
高等学校に関するもの（パンフレット）
職業調べに関するもの（インターネット）
京都に関するもの（パンフレット）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

活動を総合的な学習の時間を中心に位置づけ、学年でテーマを決めて、3年間で身に付けさせる能力を目標に設定して、取り組んでいる。また、道徳では、思いやりや望ましい人間関係を定着させる項目を重点的に指導し、総合的な学習の時間の内容と連携を図っている。また、特別活動では、学校行事や生徒会活動の目標と甘木中のESDとの目標を連動させて取り組んでいる。教科では、総合的な学習の時間との連携を図り、課題解決学習の取り組みに努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

環境整備として、機器や施設の活用、人材の活用、活用の手引き、調べ方やマナーについて学習している。また、総合的な学習の時間を要に、教育指導計画に沿った組織的かつ継続的な活動を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各活動後に教職員でアンケートを実施し、目標達成についての評価と課題について分析している。また生徒にも感想や自己評価を実施し、振り返ることで活動の内容を定着させている。学校関係者評価委員会では、問題可決的な取り組みを生徒に実践させることにより、社会に対する責任と自覚が身に付きつつあるとの評価を受けた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

学校便りを全家庭と地域のまちづくり協議会に配布して、活動の様子や生徒の感想を発信している。活動によっては、発表会を設定して保護者へも案内し、自分たちの活動の様子と学習したことのまとめを発表している。
また、本市の教育委員会作成のユネスコスクールたよりを学級に掲示し、市内の学校の取組も紹介している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

地域の方に職場体験等を依頼し、地域に根差した体験活動に取り組んでいる。またGTを、地域の人材や関係団体に依頼して、社会との連携をすすめ、持続可能な社会の構築のための開かれたネットワークを築いている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

世界的な学校間ネットワークの一員として、国内外のユネスコスクールと交流する取組は不十分である。来年度は可能な限り交流範囲を広めていく必要がある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

中学校の生徒会が中心となって地域の小学校の児童会と話し合いを持ち、共同でできる取組を考えた。生徒会は自校だけでなく、より広い地域に目を向けることができるようになった。また、話し合い活動等を中学生が主導することで、それまでの準備や運営などを通して企画力や運営力も身に付けた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

全学年共通

平和学習を通して、持続可能な開発のための教育を施す。

第 1 学年

福祉体験学習を通して、持続可能な開発のための教育を施す。

第 2 学年

職場体験学習を通して、持続可能な開発のための教育を施す。

修学旅行を通して、持続可能な開発のための教育を施す。

第 3 学年

進路学習を通して、持続可能な開発のための教育を施す。

生徒会

エコキャップ運動の推進 校区内定期的な挨拶運動の推進